

西尾市美術博物館建設基金に関する条例の制定に対する原案反対討論

私は、西尾市美術博物館建設基金に関する条例の制定について、原案反対の立場で討論いたします。

私が、この条例制定に反対するのは、計画もないのに安易に寄付を受け付ける市の考えに同意できないためであります。市民に対して、寄付をされる市民団体に対してもあまりに不誠実ではありませんか。

この基金について、市は、「市民団体からの美術博物館の建設を求める寄付を受けるためのものであるが、市として建設は考えておらず、計画もまったくない」と言います。このこと自体は、後に述べますが、私も止むを得ない判断であると考えます。

問題は、そうであるなら、そのことを市民に丁寧に説明して理解していただくべきと考えます。寄付を受けるだけ受けて、将来にわたって店晒しにするなどは許されない怠慢であり、無責任です。

市民団体の方々にとっても、基金制定の段階から展望がないことを突き付けられるのは、不本意であろうと思います。特に、私が問題と思うのは、市が、市民の寄付行為について特に責任を負わないと断じた点です。市は、無責任なお為ごかしをいうのではなく、もっと真摯な姿勢でなければなりません。

さて、「市として建設は考えていない」という点について、私が止むを得ないとする理由を述べます。

現在、市は、公共施設再配置を計画中で、第二次計画では、新たな建設は1施設足りとも行わないと明言し、建てる場合は、必ず取壊しとセットという代替であり統廃合しかないとしています。将来にわたって市が保持できる公共施設は、現在の半数しかなく、学校施設の数でしかないともいいます。私も、この方針に反する安請け合いはできないことは当然と考えます。

また、国も、多くの行政事務を広域で行う方向を打ち出しており、消防もごみ処理も広域化が義務付けられています。文化施設も例外ではなく、近隣市間での利活用が推進されていることは、既に周知の事実です。特に、美術館や博物館のように建物だけでなく収蔵品が命で、その存在価値が決まる施設にあっては、残念ながら、どこのまちでも持てるというものではない時代となっているわけです。

しかし、既にある文化施設をさらにレベルアップさせることは可能であり、容易です。ここで、市長には考えていただきたいのです。

例えば、博物館というならば、既にわが国でも有数の収蔵品を誇る岩瀬文庫を博物館とすることができるのではありませんか。実際、平成15年の岩瀬文庫建設当時には、そうし

た声も高かったのです。ギャラリーは増やすこともできましょう。岩瀬文庫には美術的要素をもった所蔵品も多くあります。去年は、皇太子殿下が「ずっと訪問したかった」と熱烈ラブコールを送っておられたではありませんか。まさに、他所の市町はない「お宝」の宝庫なのです。これを生かさない手はありません。

基金条例を制定するならば、その前に、現有施設の最適化など多様な文化施設のありかたや計画を検討すべきであり、これにそった内容の条例とするのが本来の姿と考えます。単に基金の受け皿をつくれれば良いとは思いません。

市長には、誠実に真摯に市民と向き合うこと、そして、基金をつくるならば十分な検討を加えた条例内容とするよう再考を促して、私の討論といたします。